



鳥光委員長

セメント協会のセメント系固化材普及専門委員会は、セミナーや個別講習会などの活動を通してセメント系固化材の普及に貢献している。同委員会の活動状況などについて鳥光照雄委員長に聞いた。

## ——最近の活動状況から伺いたい。

**鳥光委員長** 当委員会は、セメント系固化材を販売している11社11名の委員で構成されており、委員会の中に「PR・WG」「ホームページ・WG」「統計・WG」「講習会検討・WG」の四つのワーキンググループを設け、セメント系固化材の普及を目的とした具体的な取り組みを行っております。

PRワーキンググループでは主に官公庁や地方自治体などの発注者を対象とした個別講習会や学生を対象としたセミナーによる講演活動を継続的に行っています。

直近では、1月31日、福井県の土木技術特別研修「地盤改良研修」において、県の土木・農林技術職員を対象に「セメント系固化材を用いた地盤改良技術の動向—固化処理と試験、設計・施工に関するファクター」について講演を行った。

また、同じく1月31日、北海道建設技術職員

専門研修「土木技術講座」で、「固化処理と環境対策」と題して道や市町村の土木系技術者らを対象に講演を行った。

一方、学校関係では、2月1日に九州大学工学研究院で、建設関係の学生を対象に「土を固めるセメント系固化材—固化原理と環境への取組み」のテーマでセミナーを実施した。

このほか、同WGでは各種PR資料の作成・見直しを行っており、本年度は、より安全に使用していただける配慮を目的としてセメント協会が発行している「セメント系固化材製品紹介」のカタログの一部に固化材取り扱い上の注意点に関する記述として、使用の制限、荷姿、貯蔵、施工上の留意点、安全衛生上の留意点などの各項目を追記する作業を行っている。また、顧客などへの固化材製品に関する注意喚起を促す目的で「セメント系固化材の取扱い上の注意点」と題するリーフレット作成の検討も行っています。

ホームページ・ワーキンググループでは、セメント協会のHPにおいて、セメント系固化材に関する幅広い情報を提供するとともに、内容のさらなる充実を図っています。

統計ワーキンググループでは固化材の出荷量を集計している。現在、これまでに集計した特殊土(六価クロムが溶出しやすい土壌)用固化材のデータを含め、需要動向の内容をより掘り下げた分析を行っています。

講習会検討ワーキンググループでは、これまでにセメント協会で作成した「セメント系固化材による改良体の強さ試験方法(セメント協会標

# 新潟で試験法など講習 取り扱い注意点をPR

準試験方法)」に基づき一連の試験手順等の  
実技講習を通してセメント系固化材の適切な使  
用法の普及に努め、成果を上げてきました。

直近では、前記試験方法並びに「セメント及  
びセメント系固化材を使用した改良体の六価クロ  
ム溶出試験方法(セメント協会標準試験方  
法)」をテキストとして、3月18日新潟で主に販  
売店の固化材担当者を対象に実務に即した内  
容で試験方法・手順を正しく理解し、実践現場  
で役立つ講習会の開催を予定しています。

——需要動向については。

**鳥光委員長** 07年度の出荷量は、過去最高  
となった前年度実績(685万ト)を割り込む見通  
しになっています。昨年度堅調だったことの反  
動に加え、最近の需要傾向でセメント系固化材  
が建築物の基礎地盤改良用途として使われる  
ケースが多くなり、6月に施行された改正建築

基準法による影響が大きいと考えられます。

一方、全体の需要が減少するなか、特殊土用  
固化材が07年度も前年実績を上回る見通しで  
あることは、市場や社会のニーズに応じた品種  
の開発や普及活動の推進が寄与しているとい  
えます。

——今後の活動方針については。

**鳥光委員長** 従来の活動を踏襲しセメント系  
固化材のさらなる普及に努める。とくに、セメント  
系固化材は用途や工法の多様化に伴い新規  
ユーザーが使用する機会も増えており、これら  
ユーザーも加え、従来のユーザーに対してもセ  
メント系固化材を使用した改良土の六価クロム  
溶出試験について周知徹底を図っていきま  
す。今後、さらなる認識向上に努め、適正使用  
の徹底を図っていく必要があると考えていま  
す。